道征	日時: 12月 14 徳指導案 指導者: 菅野 裕貴	1日(金) (2)校時 場所	:【3年1組教室】	
<ul><li>資料名</li><li>「生きる」</li><li>谷川俊太郎</li></ul>		ねらい 今、生きていることを自覚し、これからを前向きに生きていこうとする心情を育てる。 内容項目3-(1)生命尊重		
指導過程	生徒の学習活動	教師の支援	留意点	
導 入 (5)分	1 今日の活動に見通しをもつ。	・今日の活動を伝え、見通しを持たせる。 「今日の道徳は、ある詩を読み、その詩のようにみんなにも詩をつくってもらいたいと思っています。すばらしい詩ができることを期待しています。」	・「やってみたい」「おもしろそう」 と意欲を持たせたい。 ・創作活動に抵抗を感じる生徒も 出てくることが予想されるが、気 を楽にして授業に臨ませたい。	
展 開 (35)分	2 「生きる」を読む。心温まる映像を見ながら、教師の範読を聞き、感想をもつ。	・本の紹介をする。 「谷川俊太郎を知っていますか?合唱コンクールで5組が歌った『春に』の作詞をした人です。この谷川俊太郎の『生きる』という詩を読みます。皆さんは映像をみながら聞いてください。この詩をよんであとで感想をきいてみたいと思います。」	<ul> <li>・生徒の中には谷川俊太郎を知っていたり、「生きる」を知っている生徒もいることが予想される。説明させてもよい。</li> <li>・ゆっくり読む。</li> <li>・あとで感想を聞くことを伝えておき、次の活動につなげる。</li> </ul>	
	<ul> <li>3 「生きる」を読んでの感想を発表する。</li> <li>・「生きる」っていつも自分がしていることなんだと思った。</li> <li>・何気ないことが「生きる」ことだと思った。</li> <li>・当たり前にしていることが「生きる」だと思った。</li> <li>4 「生きるということ」につ</li> </ul>	・数名に感想を発表させる。 考える時間を数分あたえても よい。 「これから配る短冊には『生き	<ul><li>・何気なく普段していることが 「生きる」ことであることを確認 し、次の活動につなげる。</li></ul>	
	ながる詩をつくり、グループで発表し合い、グループで一つの詩をつくる。	るということ』と書かれています。そのあとに一文でいいので詩を書いてみましょう。書き終わったらグループで発表し合います。その後みんなの詩を合体して一つの詩をつくります。」・短冊を配る。	(時間の目安) 個人で詩を作る(5分) グループで発表し合う(5分) 合体して一つの詩を作る(10分) ・なかなか書けないでいる生徒に は何気ないこと、いつも自分がし ていることは何か、問いかける。	

		・机間指導をしながら、必要	・書き終わった生徒には「すばら
		な生徒には助言する。	しいね」「詩人だね」などと褒め、
		・班に一枚用紙を配る。個人	自分の詩に自信をもたせたい。
		の詩を合体させたら清書させ	<ul><li>一つの詩をつくるときに言葉を</li></ul>
		る。	付け加えるなど工夫していいこ
			とを伝える。
	5 完成した詩を発表する。	<ul><li>できあがった詩を発表させ</li></ul>	・他のグループの発表をしっかり
	他のグループの詩を聞く。	る。	聞かせたい。
	6 詩を作ってみて、感想を	「『生きる』という詩を読んで、	・活動の感想ではなく、「生きる」
	書く。(ワークシート1)	みんなにも一つ詩をつくって	ことについて考えた感想を発表
		もらいました。それを合わせ	させる。
		て一つの詩を完成させたね。	
		この活動を通して、考えたり	
		感じたりしたことをまとめて	
		みよう。」	
		・数名に発表させる。	
	7 「生きていく」ためには何	「今まで『生きる』ということ	・これからの自分の生き方に目を
	が必要か、考え、書く。(ワー	について考えてきましたが、	むけさせたい。
	クシート2)	これからも皆さんは生きてい	・生きていく自分に必要なものは
	・自分を支えてくれる人。	きます。生きていくためには	何かをじっくり考えさせる。
	・希望。 	なにが必要でしょうか。理由	
	• 夢。	も書いてみよう。」	
	・生きる強い気持ち。	<ul><li>・机間指導をし、必要であれ</li></ul>	
	・周りの人に感謝する気持ち。	ば助言をする。	
		・数名に発表させる。	
 終 結	6 今日の活動を振り返る。	 ・今日の活動を振り返る。	
(5)分	,		

年	組氏名	(
+	祖以白	

)

1	
-	
-	
-	
-	
2	
_	
-	
-	
-	
-	
_	
3	
-	
-	
-	



